

# 児童労働だけじゃない、 カカオの問題

～カカオの調達リスクと世界動向～

2024年4月19日  
@オンライン開催



© Ubiratan G. Suruí / WWF-Brazil



WWFジャパン 自然保護室  
森林グループ 溝口拓朗

# 今日のメッセージ

## カカオを調達する日本企業のみなさまへ

- 1 森林破壊、土地転換、人権侵害が無いことを約束する、カカオ調達方針の策定および公開
- 2 上記1で約束した森林破壊・土地転換・人権の問題がないことを確認しうる精度の科学的根拠に基づいた（例えば衛星画像等）トレーサビリティ手法確立
- 3 直接のおよび間接的サプライヤーに対する、上記1内容の周知と啓発、必要に応じたサポート
- 4 カカオ生産者の生活所得向上に向けた、期限付きかつ測定可能なロードマップの策定・実施
- 5 サプライチェーン全体をカバーする児童労働監視・是正システムの設計・実施
- 6 アグロフォレストリーを実施するコミュニティを支援するためのプロジェクトへの投資

# 世界のカカオの生産について

# カカオの産地



西アフリカ諸国（コートジボワール、ガーナ、カメルーン、ナイジェリア）で世界のカカオ生産の7割以上をまかない、特に**コートジボワールとガーナ**が圧倒的な生産量を誇る

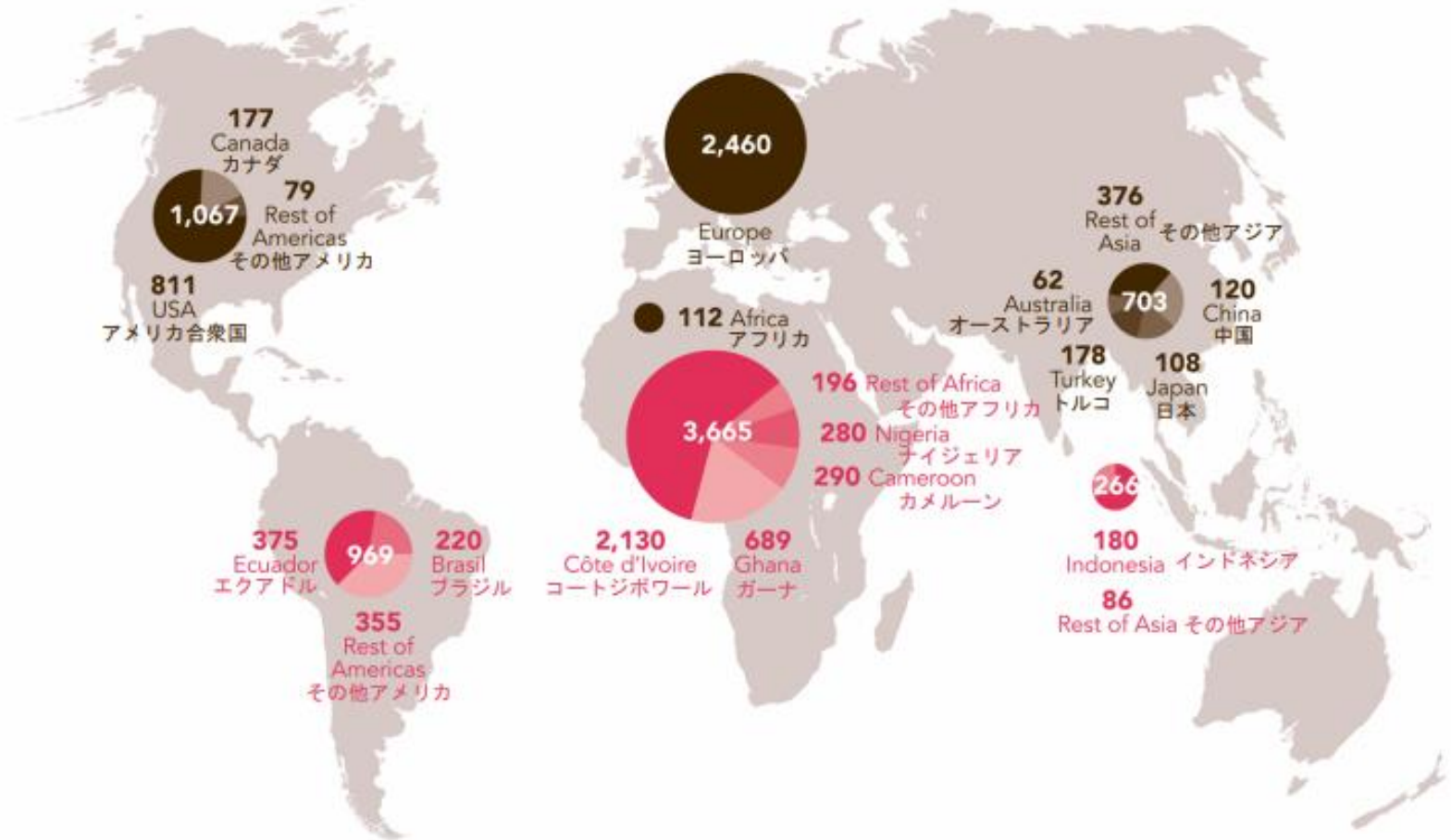


## 生産 / 輸入

カカオ生産量（単位: 1,000 トン）2020/21 年（予想）

カカオ輸入量（単位: 1,000 トン）2020/21 年

出典：表 3.9（ICCO、2022 年）



# カカオの生産量

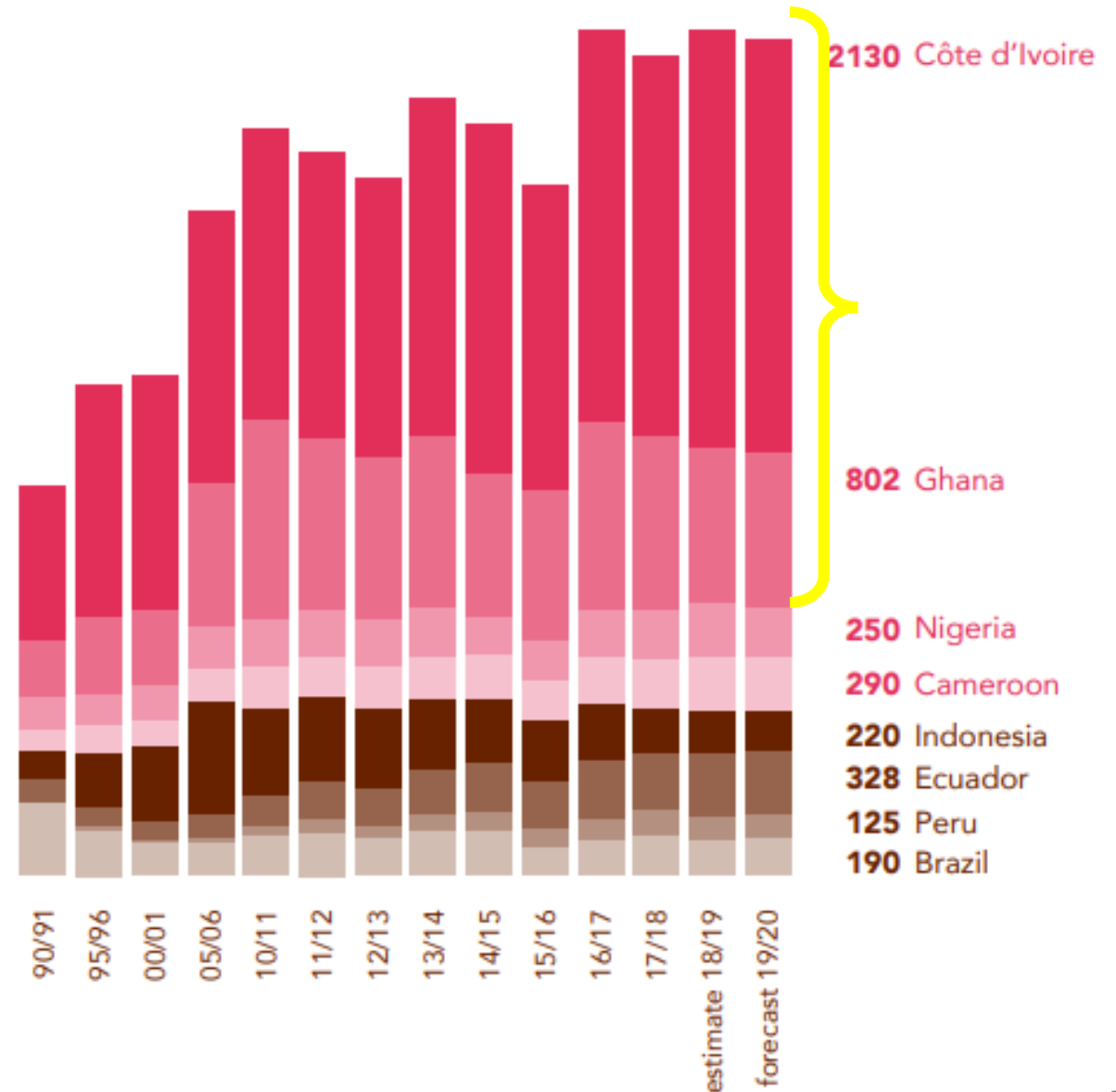
## ◆過去30年間で、世界のカカオ生産は約2倍に増加

増加分はほぼ西アフリカでまかなわれ、その代償として森林が失われた。同じ期間に、コートジボワールでは約90%の森林が、ガーナでは約65%の森林が失われたといわれる

<https://cocoabarometer.org/wp-content/uploads/2022/12/Cocoa-Barometer-2022.pdf>

## ◆カカオ生産は小規模農家によって行われる

農家は多くの場合貧困であり、児童労働などの問題にも密接にかかわる

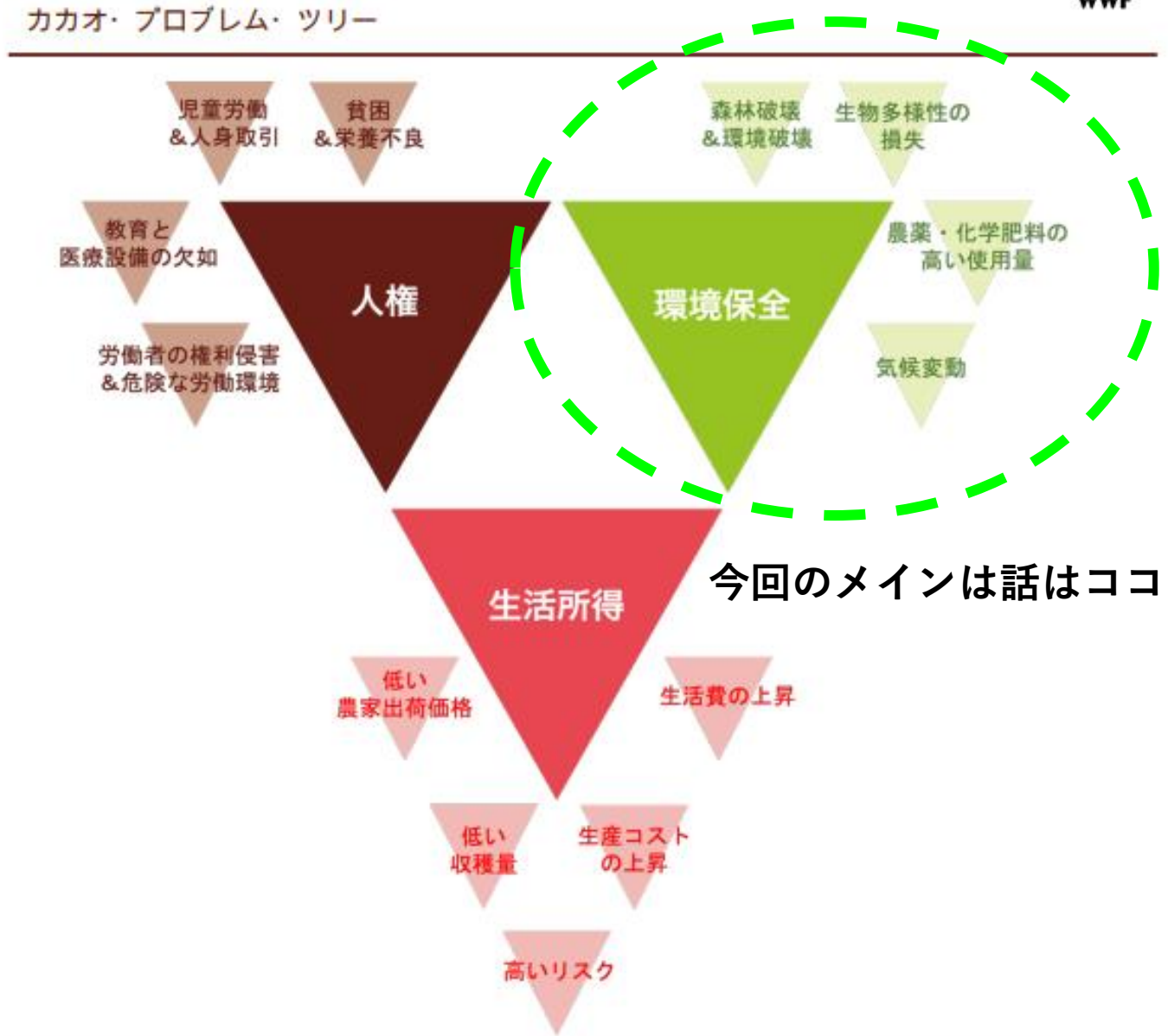


カカオの課題？

# カカオの問題

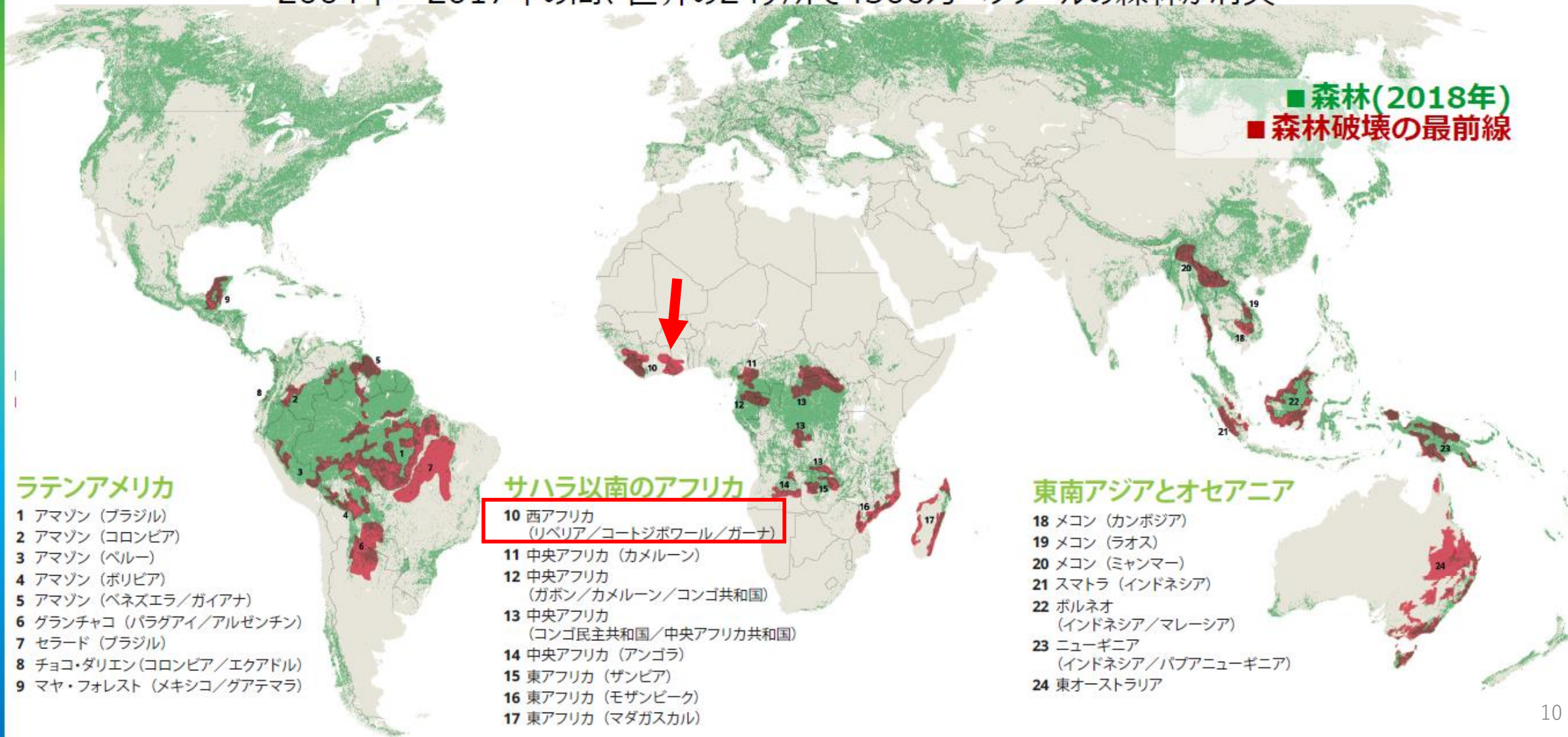


- 課題は多岐にわたるが、環境・人権・生活所得の3つに集約される
- これまでは、人権問題がフォーカスされてきた
- これからは、環境問題に配慮していくべき。
- 人権や環境の問題を改善するためにまず動くことが期待されるのは、企業や政府である  
(カカオ・バロメーター2022)



# WWF報告書「森林破壊の最前線」

2004年～2017年の間、世界の24ヶ所で4300万ヘクタールの森林が消失

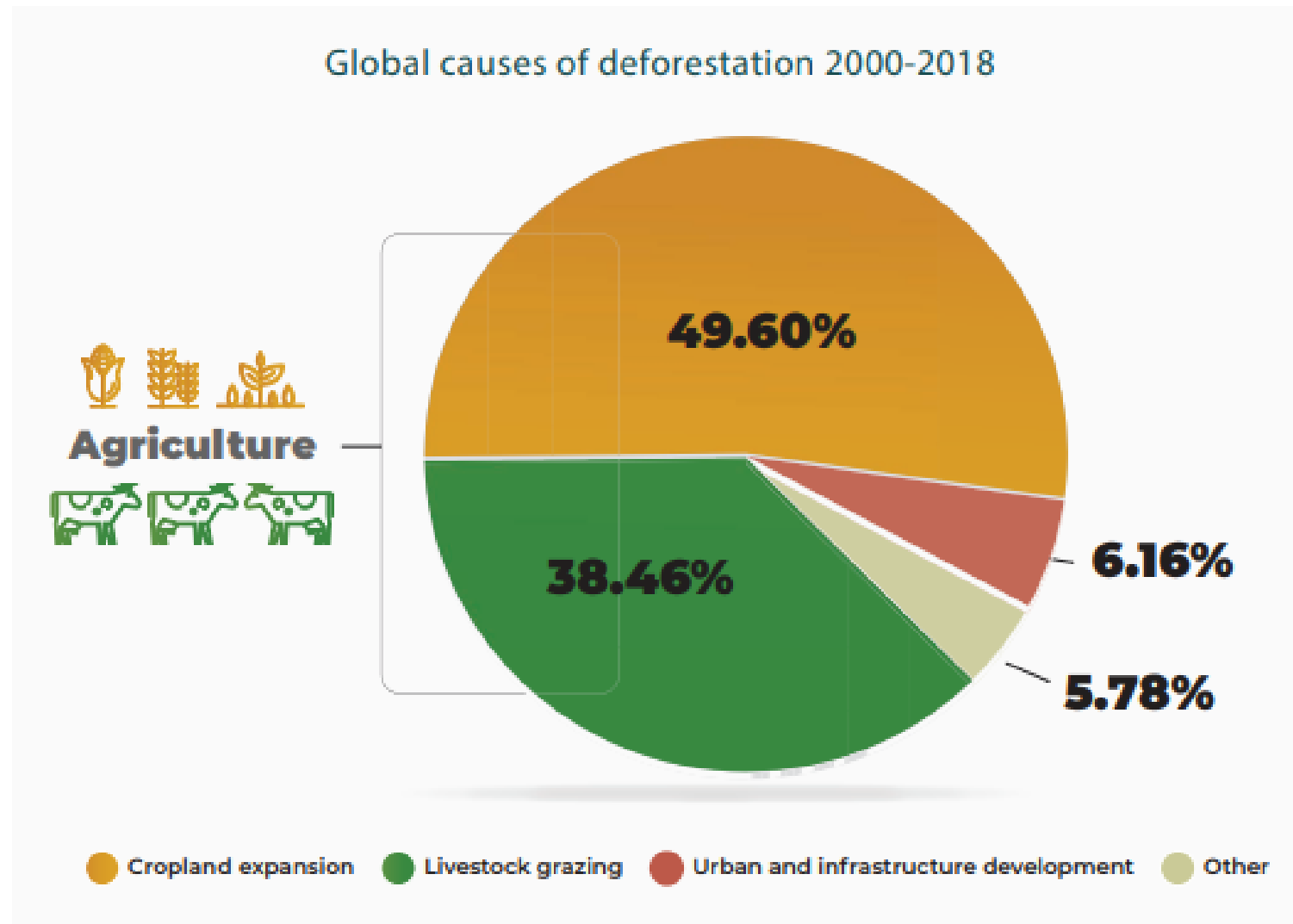


Source:

[https://wwf.panda.org/discover/our\\_focus/forests\\_practice/deforestation\\_fronts/](https://wwf.panda.org/discover/our_focus/forests_practice/deforestation_fronts/)  
<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4547.html>

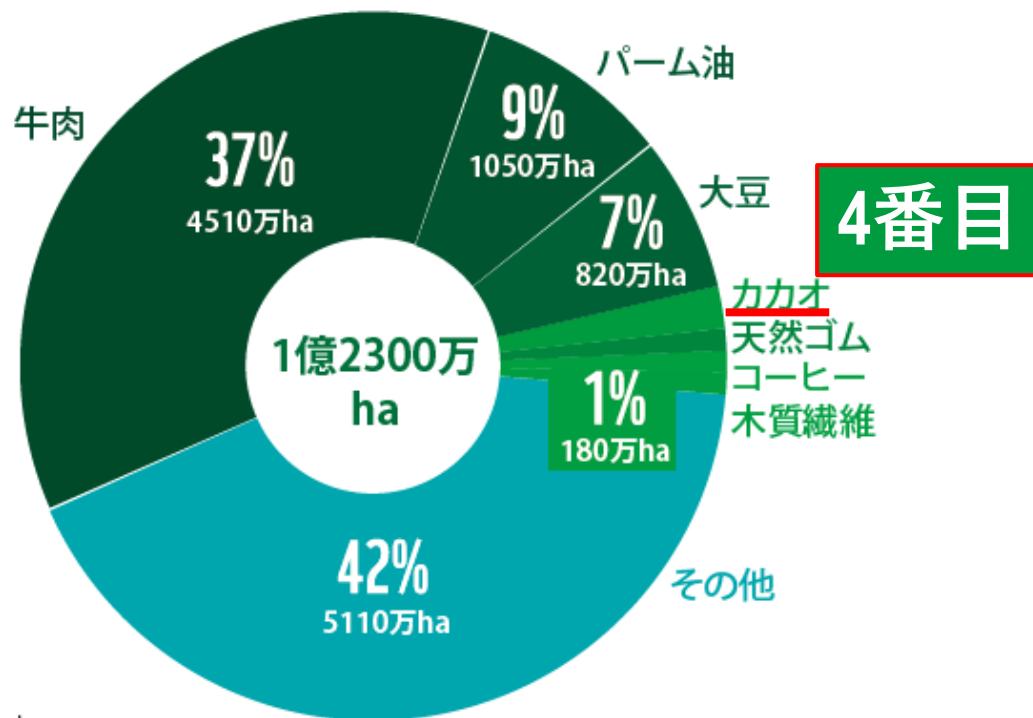


# 森林破壊の要因の9割近くは農業



# 農業由来の森林破壊

6割は7つのコモディティに由来



4番目

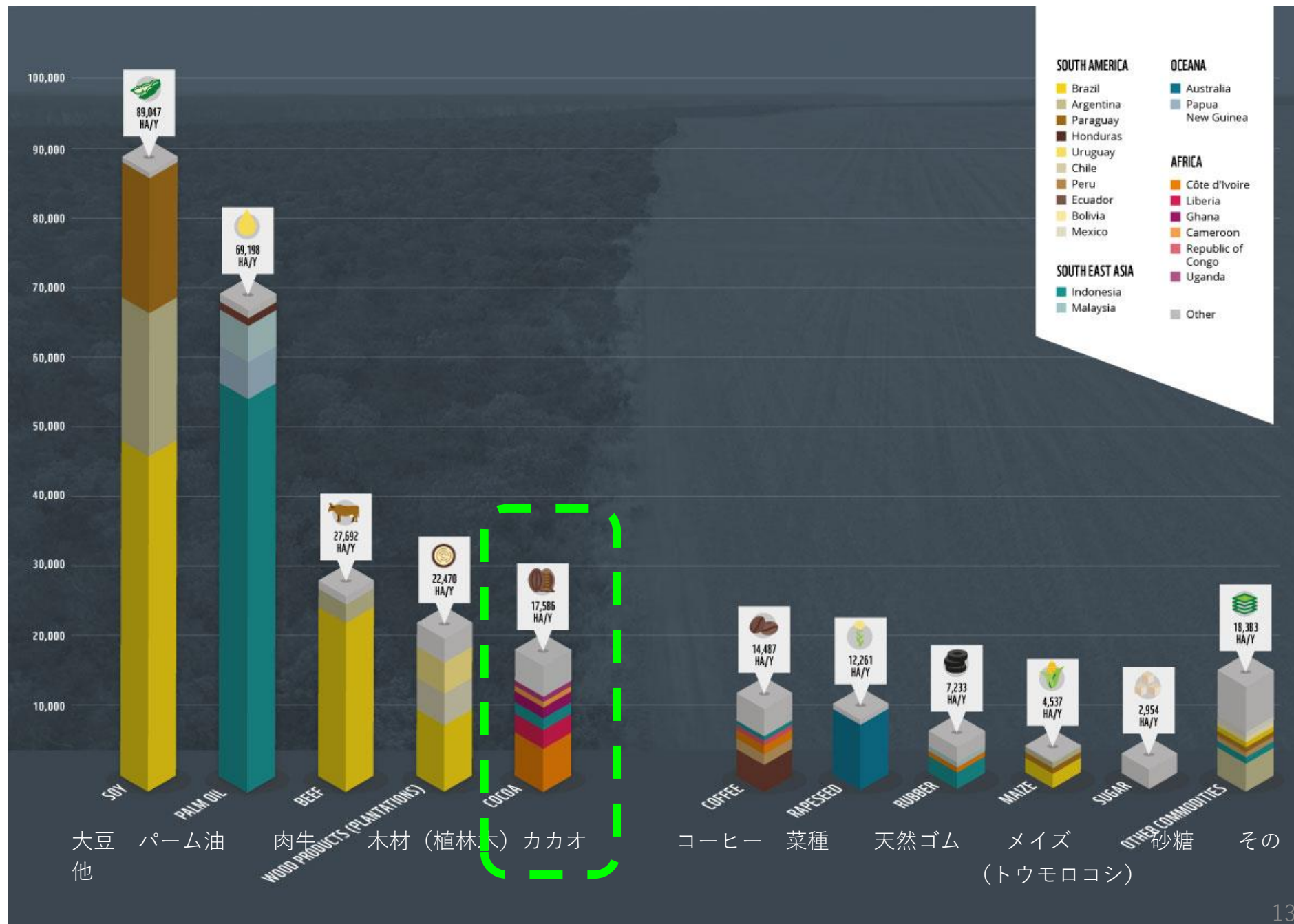
出典：Goldman et al.

7コモディティのサプライチェーンを改善すれば、  
森林破壊・土地転換の要因を大きく減らすことができる。  
カカオもその中の一つ!!!



# EUのコモディティ輸入に埋め込まれる熱帯林破壊 (2005-2017)

1. 大豆
2. パーム油
3. 肉牛
4. 木材
5. **カカオ**
6. コーヒー
7. 天然ゴム



# EUDR

欧州森林破壊防止規則（EU Deforestation Regulation／以下EUDR）

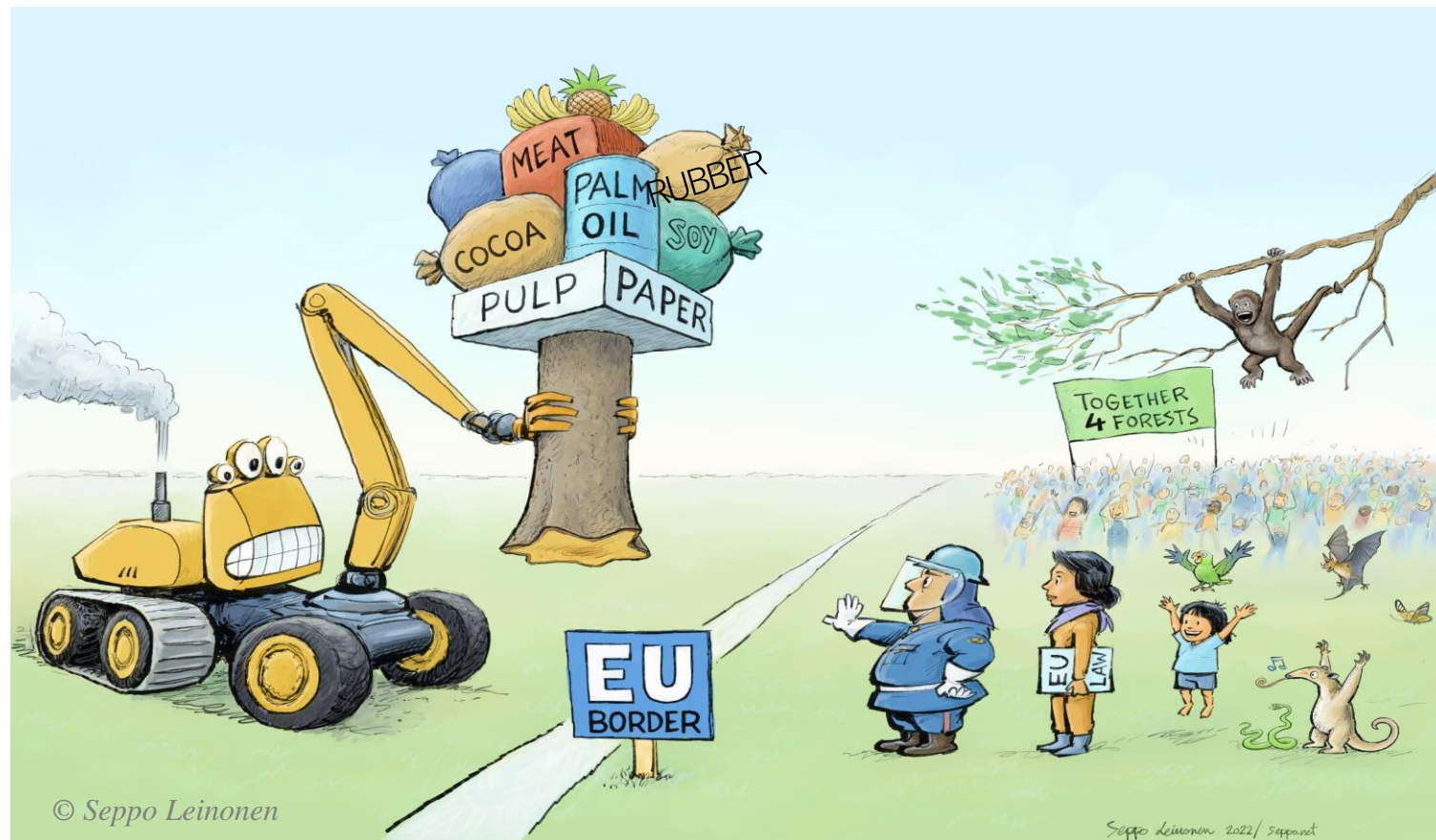
- 規則発効：2023年6月29日
- 適用開始：原則発効から18か月後（※**2024年12月30日**）
- 目的：世界の森林破壊を阻止、気候変動および生物多様性危機への対応
- 対象コモディティ：牛肉、大豆、パーム油、**カカオ**、コーヒー、天然ゴム、木材／紙
- 対象事業者：輸入業者（Operator）及び大規模取引業者、輸出も対象。中小規模業者も2025年6月30日から対象。

- **合法性＋森林減少・劣化リスクのデューデリジェンス\***  
（2020年12月31日以降の減少・劣化）が義務化
- 「完全な」**トレーサビリティ**（農園の位置情報）
- DDを第三者認証で代用せず、**認証制度は情報収集・リスク評価のツール**という位置づけ
- 輸入前のDDステートメントの提出の義務化

**たとえ原産国で合法的に生産されていても、森林破壊を引き起こしていないことの確認（DD）を怠れば「罪」に**

\*デューデリジェンス（Due Diligence）とは環境や人権などに関するサプライチェーン上の課題を生産者やサプライヤーの責任とするのではなく、自己の責任として自ら情報収集を行い、リスクを評価し、仮に課題があれば然るべきリスク低減措置をとること。

# 森林破壊ゼロは国際スタンダード トレーサビリティが重要

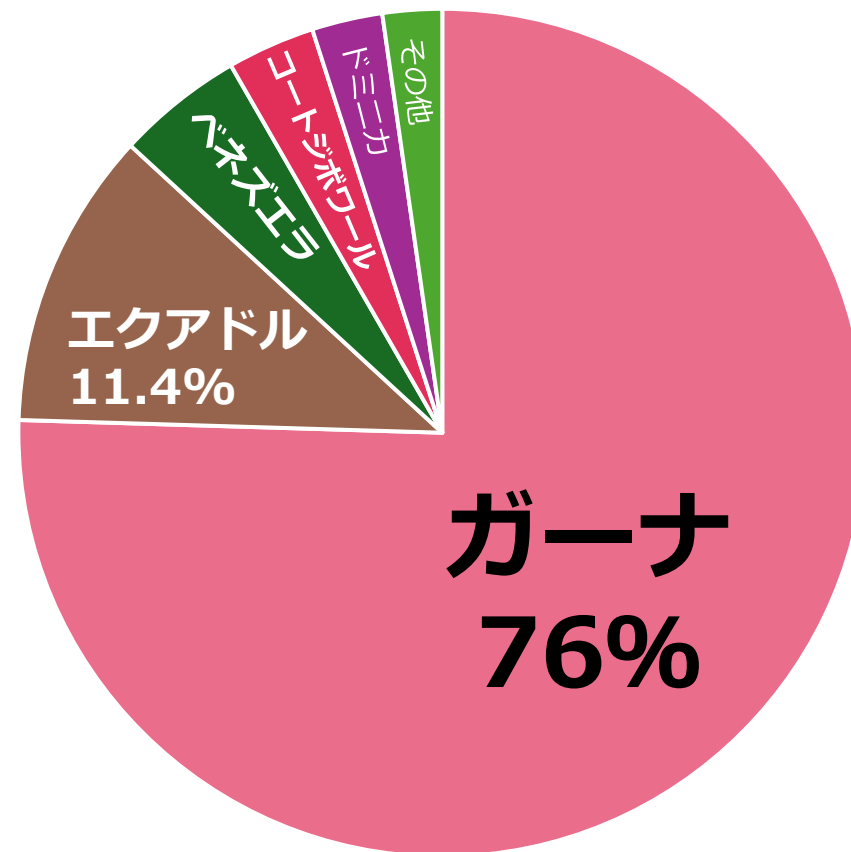
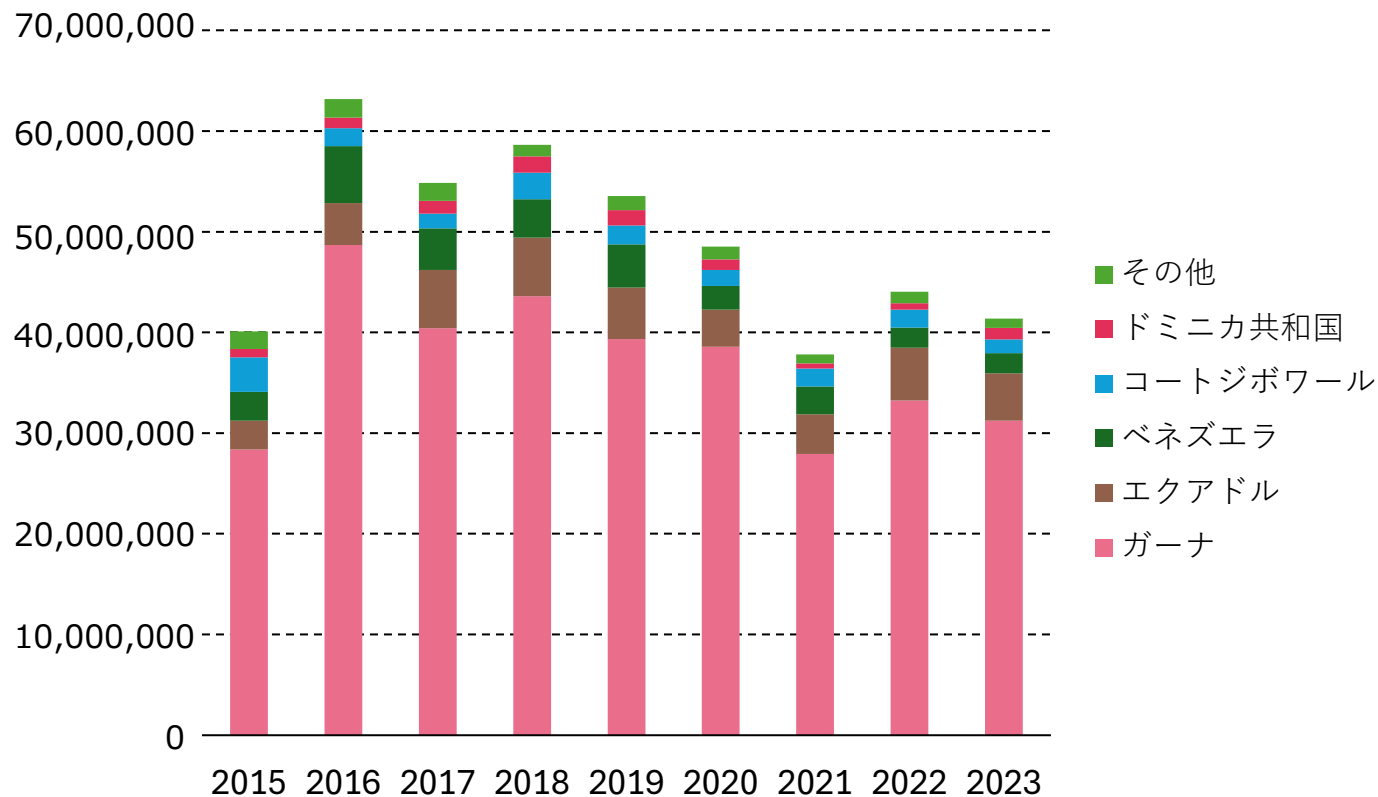


日本の企業の責任は？

# 日本の輸入先



## 日本の国別カカオ豆輸入量 (2023年)



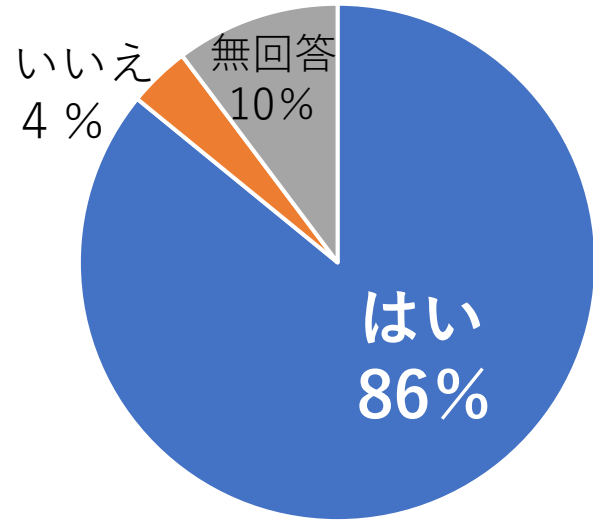
◆日本は8割弱をガーナから輸入している。

2023年に限らず日本は長年にわたって、カカオ豆の輸入をガーナに依存している。

# アンケート結果



カカオと森林減少の認知度 n = 78



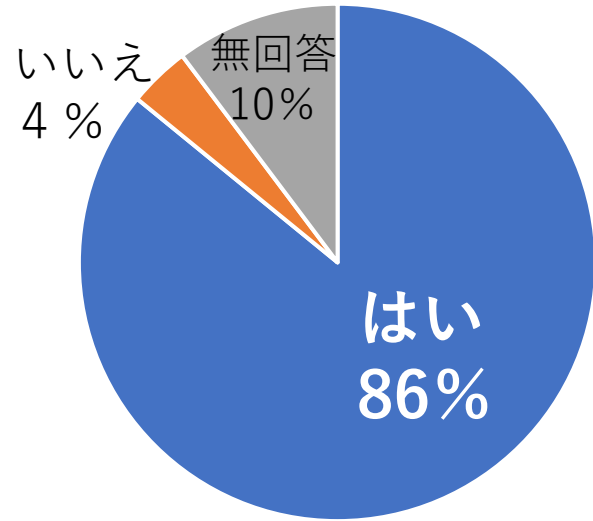
認知度は高い

これからどのように責任を果たしていくか



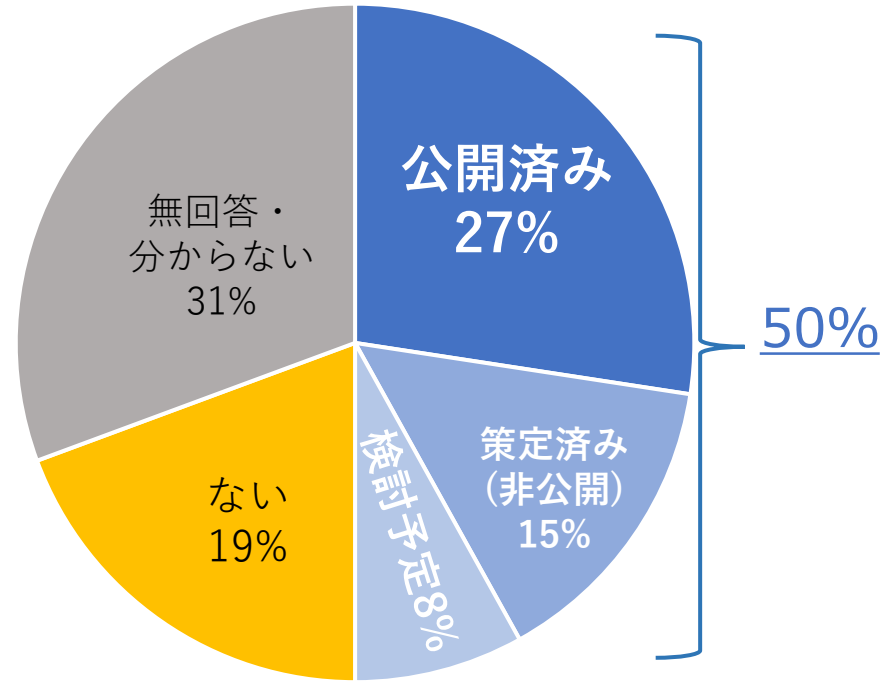
# アンケート結果

カカオと森林減少の認知度 n=78



認知度は高い

調達方針の有無 n=62(カカオを扱っている企業のみ)



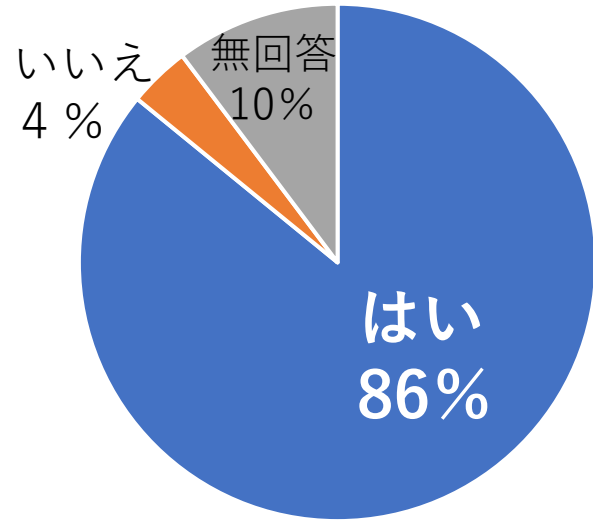
調達方針も進んでいる

これからどのように責任を果たしていくか

# アンケート結果

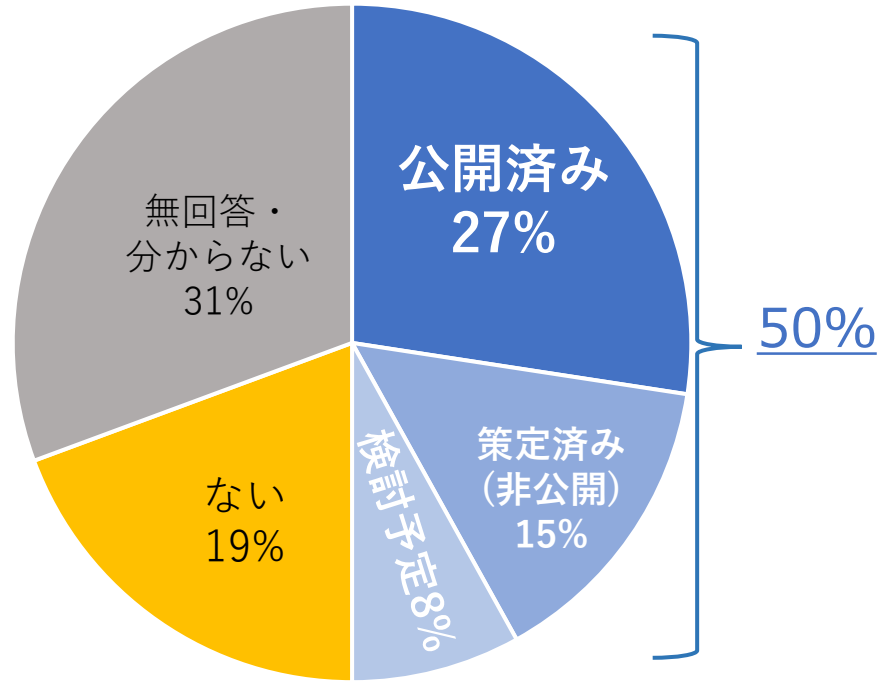


カカオと森林減少の認知度 n=78



認知度は高い

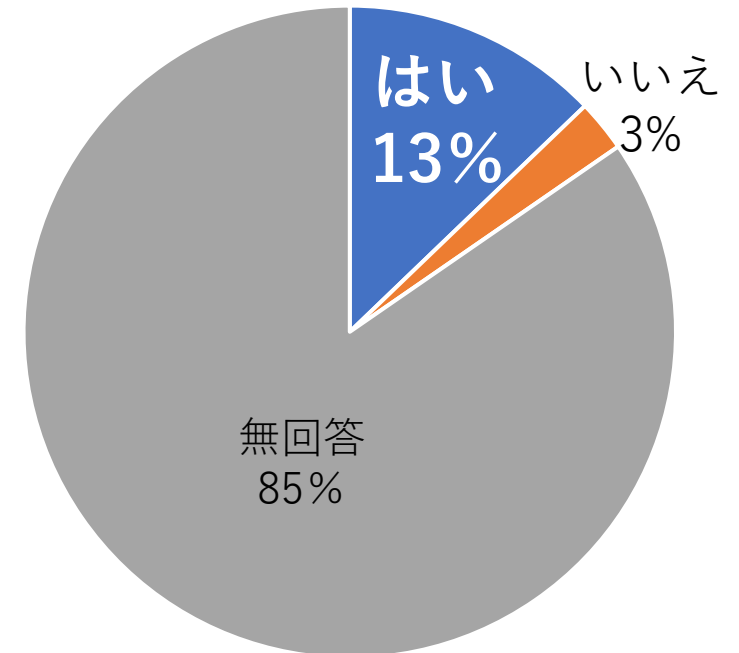
調達方針の有無 n=62(カカオを扱っている企業のみ)



50%

調達方針も進んでいる

方針に森林破壊ゼロが入っているか n=78



森林破壊ゼロにコミットが必要

これからどのように責任を果たしていくか

**ご清聴ありがとうございました**